

平成27年度研究科入試問題（第1次）

文化交流論（出題意図）

（人文社会科学研究科 言語・社会文化専攻 言語文化コース）

〈1〉

第二次世界大戦直後に出版され、近年再評価も高まっている古典的日本文化論を題材に作問しました。原文をより平易な英語に書き換えた文章を採用し、基本的な英語読解力、文脈理解力、日本語表現能力、および論理的思考力を問いました。

問1 英文の基礎的読解力を問うとともに、文章が提示する記号イメージを文脈に接続させていく論理的思考力、および日本語表現能力を問いました。

問2 英文の基礎的読解力を問うとともに、具体的な文化現象を抽象的な象徴として理解する能力を問いました。キーワードをもとに一定の文脈をとらえて説明する論理的思考力に重点を置いています。

問3 文化表象に特定の意味を読み込む著者の独自性を理解し、それを日本語で的確に表現する能力を問いました。また、著者独自の解釈にたいしてどのような視点からどのようなことを論じることが可能か、思考の柔軟性と批判能力を問いました。論理的表現能力にも重点を置いています。

〈2〉

文化交流論分野における基礎的な知識を問う問題です。抽象度の高い概念を的確に説明する論理的思考力を問いつつ、具体例の提示と日本語の言語運用能力にも重点を置いています。